



天文研究者よ，街に出よう！ 世界天文年 2009

海 部 宣 男

〈世界天文年 2009 日本委員会委員長・日本学術会議会員〉

世界天文年の 2009 年が、目前である。1 月 4 日には、ぐんま天文台をセンター会場に、全国の公開天文台・科学館で、いっせいにオープニングイベントが行われる。

世界天文年 2009 は言うまでもなく、ガリレオ・ガリレイの望遠鏡による宇宙観測から 400 年を記念する催しだ。2003 年 IAU 総会で議決され、2005 年ユネスコ総会、2007 年国連総会決議を経て、真に世界的イベントとして準備が進められてきた。日本も日本学術会議を通じて外務省が支援に動き、ユネスコ・国連決議の共同提案国になっている。1 月 15-16 日にパリのユネスコ本部でオープニングセレモニーが開催されるが、各国から若者を招待することになり、天文学に関心をもつ日本の若者二人も参加する。国際的な運営は、IAU 運営委員会 (EC) の IYA Working Group が担っている。筆者もメンバーだが、2-3 週ごとの電話会議というタイトな運営だ (IYA2009 ホームページ: <http://www.astronomy2009.org/>)。

天文学の進展著しい日本は、いま IAU 会員数 544 名で、米・英・仏に次ぐ 4 番目だ。そのうえ日本は、世界に冠たる天文アマチュア・天文普及の先進国である。300 を超えるプラネタリウムはアメリカに次ぎ、200 以上もある公開天文台の活動は世界に類を見ない。日本の世界天文年はこうした力を結集して、“草の根・日本津津浦浦世界天文年”にしたい。そこで日本学術会議 IAU 分科会が呼びかけ、日本天文学会、国立天文台・JAXA 両研究組織の支援を得、天文学教育普及研

究会、日本公開天文台協議会、日本プラネタリウム協会などに参加をお願いした。こうして 2007 年に、研究・教育・普及の関係者によるオールジャパンの世界天文年 2009 日本委員会が発足した。その後、日本惑星科学会と日本物理学会の支援もいただき、財政的には財界・一般からの寄付をお願いし、天文学振興財団も支援する。さらにアマチュア天文家の方々との直接連携では、12 月に「天文同好会サミット 2008」を三鷹で開催した。日本委員会には募金委員会 (小平桂一委員長) と企画委員会 (渡部潤一委員長) を置き、企画委員会は多彩なメンバーで活発な企画・準備を進めてきた。企画・内容は別の報告に譲るが、ぜひ日本委員会ホームページ (<http://www.astronomy2009.jp/>) も参照されたい。かつ、まずは貧者の一灯。上記 HP からたどる世界天文年への寄付ページで、活動への寄付をお願いしたい。

さて、昨秋の日本天文学会でも述べたが、いま足りないのは研究者の参加である。世界天文年は自主的で多彩な活動の大集成、ボトムアップだ。天文研究者よ、街へ出よう！ 地域で、研究室で、個人で「自分の世界天文年」を創出していただきたい。宇宙ほど、人々の心を不思議へと誘うテーマは少ない。ガリレオ以来 400 年の宇宙の広がりには目もくらむほどだが、いま日本の子供たちは天の川どころか、星空まで奪われている。大人、特に研究者が黙っていても、自然・宇宙への関心や不思議に思う科学の心は育たないだろう。日食、望遠鏡の組み立て、小観望会、講演、クラブ活動、

出版など、子供たちに、また星空を忘れていた大人たちにも改めて、宇宙という広大な自然に気づき、考え、不思議に思う気持ちを広めたい。それは研究に専念する私たちの社会へのお返しであり、私たち自身にも実となり支えとなっていくはずである。日本委員会も、大いにそうした活動を支援してゆきたい。

以下に主な企画をあげておく。

世界天文年 2009 日本委員会の主催企画

- 世界天文年 2009 オープニングイベント
2009年1月4日、全国の天文台・科学館で
- 「アジアの星の神話・伝説」プロジェクト
アジア共同で各地の星空伝承を集め共同出版
- 「君もガリレオ！」プロジェクト
小型望遠鏡キットで、みんなで天体観測
- めざせ 1,000 万人！ みんなで星をみよう！
全国各地、それぞれ多様な星見イベント開催
- 全国どこでも世界天文年！ プラネタリアムへ行こう
各プラネタリアムが星への扉を開く特別企画
- 巡回企画展「ガリレオの天体観測から 400 年」
天文学会共催、仙台・東京・名古屋・大阪で展示
- 「7.22 皆既日食中継」プロジェクト
各地の皆既日食映像を共有、世界に発信
- 日食グラスで月にかくれる太陽を見よう
安全な日食観察専用めがねの開発・普及
- ガリレオの望遠鏡精密復元プロジェクト
現代に蘇えるガリレオの望遠鏡の復元・販売
- 世界天文年星空ブックフェア（8月予定）
書店特設コーナーに日本委員会公認書籍
- 世界天文年 2009 参加・実施マニュアル
世界天文年への参加方法解説書の制作
- 天文教育シンポジウム 2009（12月予定）
世界天文年に携わった人々がこれからの議論

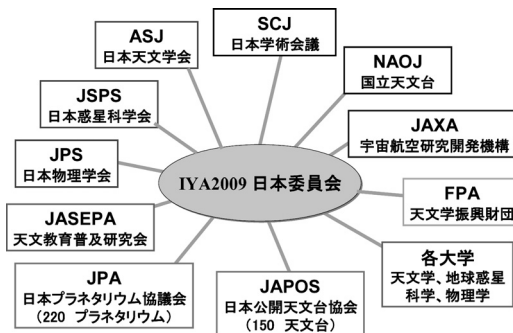


図 世界天文年2009の日本での組織、研究・教育・普及の三位一体が特徴。

- そのほか
 - ガリレオくんと仲間たち（Web 連載まんが）
 - 星と風景を詠む（短歌・俳句・詩のコンテスト）
 - 伝統的七夕で星を見よう！ Milky Way Week
8月22～日の週に東アジア各地で天の川観望
- 他にさまざまな団体が主催する公認企画がある。
詳細は上記日本委員会ホームページを参照。
- IAU による世界企画 (Cornerstone Project)**
 - 100 Hours of Astronomy（4月2～5日）
 - The Galileoscope
 - The Portal to the Universe
 - Cosmic Diary
 - She is an Astronomer
 - Drak Skies Awareness
 - Astronomy and World Heritage
 - Galileo Teacher Training Programme
 - Universe Awareness
 - From Earth to the Universe
 - Developing Astronomy Globaly